

序章 景観づくりの考え方

第1節 景観計画策定の背景と目的

(1) 景観計画策定の背景

日本のまちづくりは、高度経済成長期の中で経済性や機能性が優先され、景観に対する配慮が欠けてきたといわれています。

しかしながら、人の価値観が、量的充実から質的向上へと変化しつつあり、良好な景観への関心が高まっています。

これを背景に、景観に関する総合的な法律である「景観法」が、平成17年に全面施行され、全国の多くの地方公共団体において、景観条例の制定をはじめとした景観に関する様々な取り組みが行われています。

そのような中、平成17年の1市2町3村の合併により、八代市域は拡大し、九州中央山地から八代海に至る広大な範囲の中に、数多くの特徴的な景観を有することとなりました。

近年では、市役所庁舎の建て替えや大型クルーズ船の寄港による外国人観光客の増加、八代妙見祭のユネスコ無形文化遺産への登録などを受け、八代城跡周辺や日奈久温泉街、妙見宮周辺などの地区で、八代らしさを活かした新たな景観づくりが求められています。

その一方で、少子高齢化の進展、人々の生活様式の多様化や経済活動の変化に伴い、本市の景観を取り巻く環境は大きく変化し、山林や農地の荒廃、空き家・空き地の増加など、潤いのある自然景観や八代らしい雰囲気のあるまちなみ景観が損なわれつつあるのも事実です。

また、法的担保や地域の特性に応じたきめ細やかな規制誘導策がないことから、重要な景観資源が消失したり、周辺と調和しない建築物が建築されたりすることが懸念されます。

さらに、各地域で景観づくりの活動は行われているものの、具体的目標やバックアップしていくための仕組みがないことから、有機的な連携に乏しく、持続的な活動につながっていないのが現状です。

そこで、これらの要請・課題に対処し、八代らしい魅力ある景観形成を推進していくため、「景観法」に基づく「八代市景観計画」を策定することとしました。

(2) 景観計画の目的

八代市景観計画は、景観づくりに関する基本的な考え方や目標、方針等を明らかにし、市全体で共有することにより、八代らしい良好な景観の保全・形成を総合的かつ計画的に推進することを目的としています。

また、景観条例の制定に併せて、届出対象行為や景観形成基準を定めることにより、景観づくりに関して一定の強制力を持ったルールをつくることもできます。

さらに、景観法の諸制度の活用により、市民・事業者・行政のそれぞれが主体となり、協働して景観づくりを推進することができます。

なお、本計画は、今後の市民主導による景観づくりへの円滑な展開を見据え、生活者である市民の暮らしの社会基盤施設としての“眺めの小路”※に焦点を当てて策定しています。

※“眺めの小路”とは、本市を特徴づける景観や、守り育てていきたい景観を、眺め、楽しみながら歩くことができる小路です。本計画では、景観づくりの活動の場として位置付けています。

第2節 景観まちづくりの必要性

(1) 景観とは

景観とは、「目と心に映るまちの姿」であり、目に見える色や形だけでなく、その土地の歴史、文化、風土、都市活動や日常生活から生じる雰囲気、さらには、水の流れる音や匂いなど、人間の五感を通して感じられるものです。

良好な景観は、人々の長い時間をかけた生活の営みや努力の積み重ねにより形成されます。

(2) 景観まちづくりとは

景観まちづくりとは、地域固有の美しい景観を、守り、育み、創り出すことで、魅力あるまちにしていく、一連の取り組みをいいます。

具体的には、歴史文化遺産の保全や美しいまちなみの創出など、大きな取り組みの他に、地域の清掃や除草・花植えなどの日常の地道な活動も、大切な取り組みのひとつとして挙げられます。

すなわち、景観まちづくりは、単に美しく魅力的な空間をつくることだけではなく、そこに住み、働く人のいきいきとした生活や活動を目指すものといえます。

また、景観まちづくりの対象は、私たちが日常的に見ている、自然の景色や道路等の公共空間だけでなく、通りから見える個人の建物や庭なども含まれます。

特に、住宅・店舗の外壁や屋根、敷地内の緑地や生垣、看板など、多くの人から見える部分は、まちの景観を構成する大きな要素であり、個人の所有物であっても、地域の共有空間であるという意識を持つことが大切です。

(3) 景観まちづくりの必要性

良好な景観は、私たちの暮らしに潤いや安らぎを与えるとともに、そのまちに「住んでみたい、住み続けたい」と感じさせる「まちの魅力」となるものです。

また、良好な景観は、人の心を育み、その心が次の良好な景観を育むという、持続的な展開にもつながっていきます。

誰もが足を止め、「美しい」、「心地よい」と感じる場所には、その地域に暮らす人々の地道な景観まちづくり活動が息づいています。

景観まちづくり活動は、地域への愛着や誇りを育み、豊かなコミュニティを形づくるものです。

さらに、まちの個性や魅力を引き立てることは、観光や地域間交流、産業活動、文化活動に活力を与え、地域の活性化につながります。

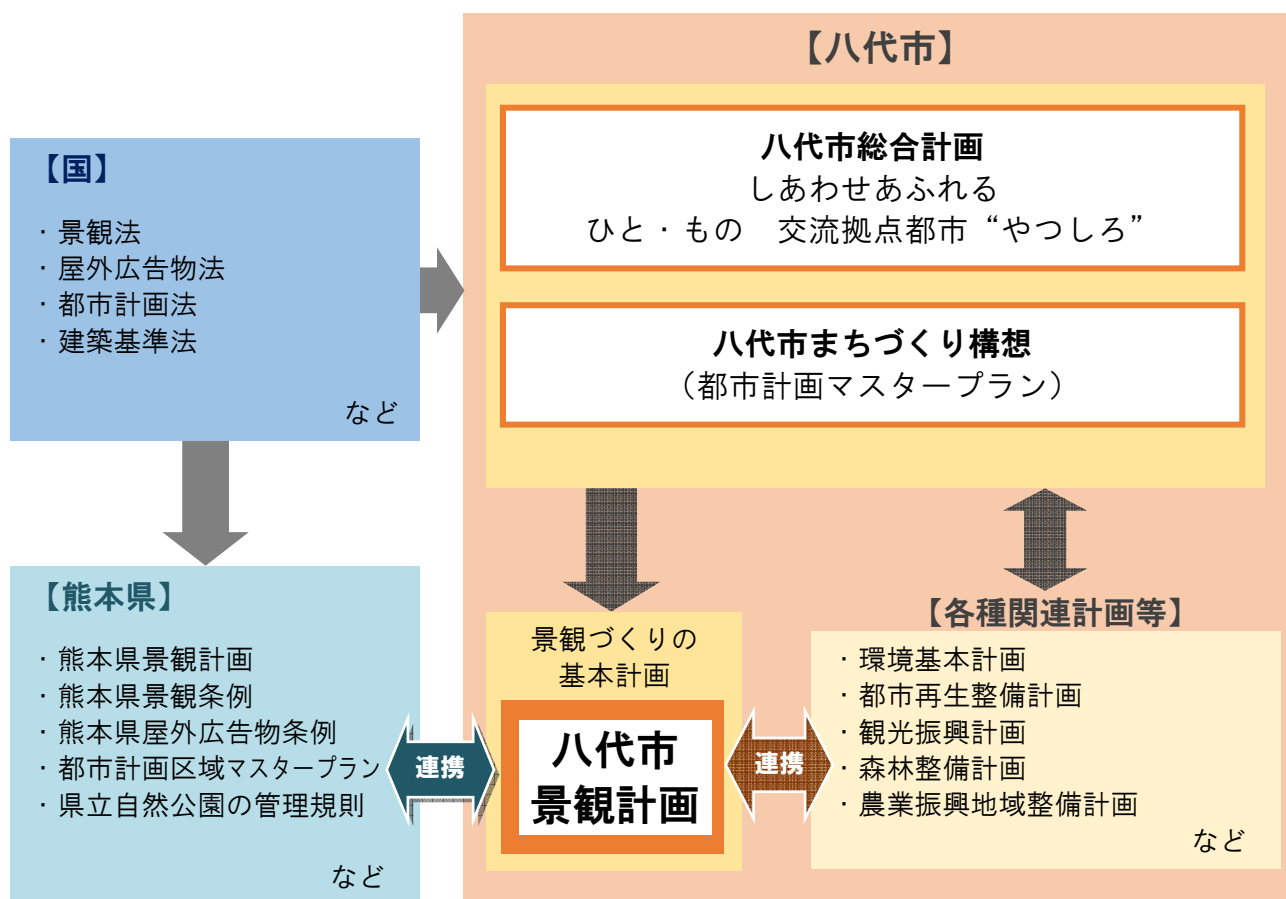
豊かな自然、歴史、文化、多様な地域性は、本市の個性であり、後世に残すべき市民共有の財産です。

今後、本市が魅力ある都市であり続けるためには、この「八代らしさ」を活かした良好な景観まちづくりに、市民一人ひとりが、当事者であることを意識しながら、積極的かつ持続的に取り組むことが必要です。

第3節 景観計画の位置づけ

八代市景観計画は、景観法第8条の「良好な景観の形成に関する計画」として定め、豊かな自然、歴史、文化、暮らしが織り成す八代固有の景観を“守り”“育み”“つくり”、次世代に誇れる景観として引き継ぐために、目標や方針を達成するための取り組み、景観形成基準等を定めた基本計画です。

今後は、本計画に基づき、市の景観の特性を活かしつつ、更なる景観の魅力向上に資するような景観まちづくりを進めていきます。



▲景観計画の位置づけ

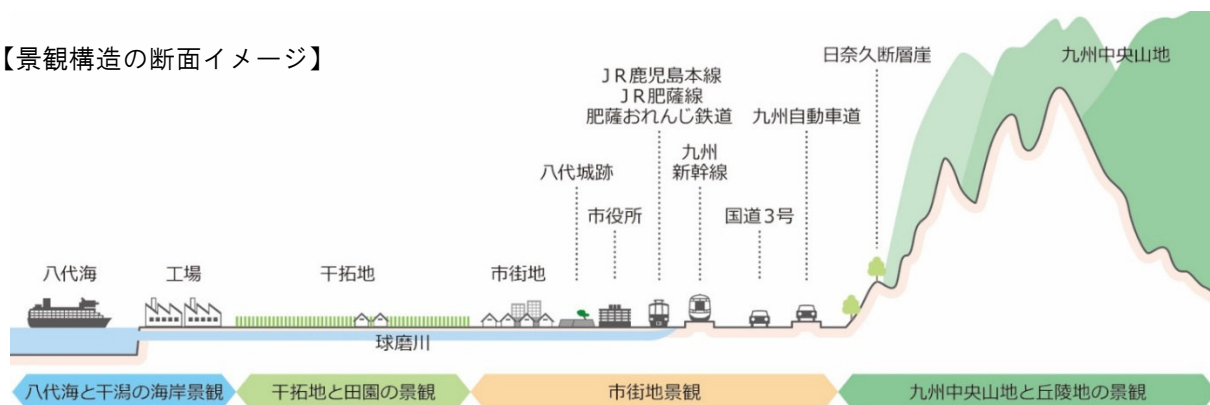
第4節 八代市の景観特性

(1) 景観構造

八代市の地勢は、日奈久断層崖に沿って東側の山間部と西側の平野部に大きく分けられます。

東側の九州中央山地から日奈久断層崖の市街地にせまった斜面緑地を経由して、西側に広大な干拓地が広がり、八代海に至る多様でダイナミックな地形が景観構造の土台となっています。

【景観構造の断面イメージ】



景観の構造をみると、九州中央山地と丘陵地からなる「やまなみ景観」、八代海と干潟が広がる「海辺景観」、広大な干拓地と田園からなる「田園景観」、市街地を中心とする「まちなか景観」の4つの景観域により構成されています。

また、球磨川、氷川等の「河川景観軸」や国道3号、国道219号、国道443号、国道445号、県道八代鏡宇土線、県道八代港線、九州縦貫自動車道等の「道路景観軸」、JR鹿児島本線、JR肥薩線、肥薩おれんじ鉄道、九州新幹線の「鉄道景観軸」が景観構造の骨格を形成しています。

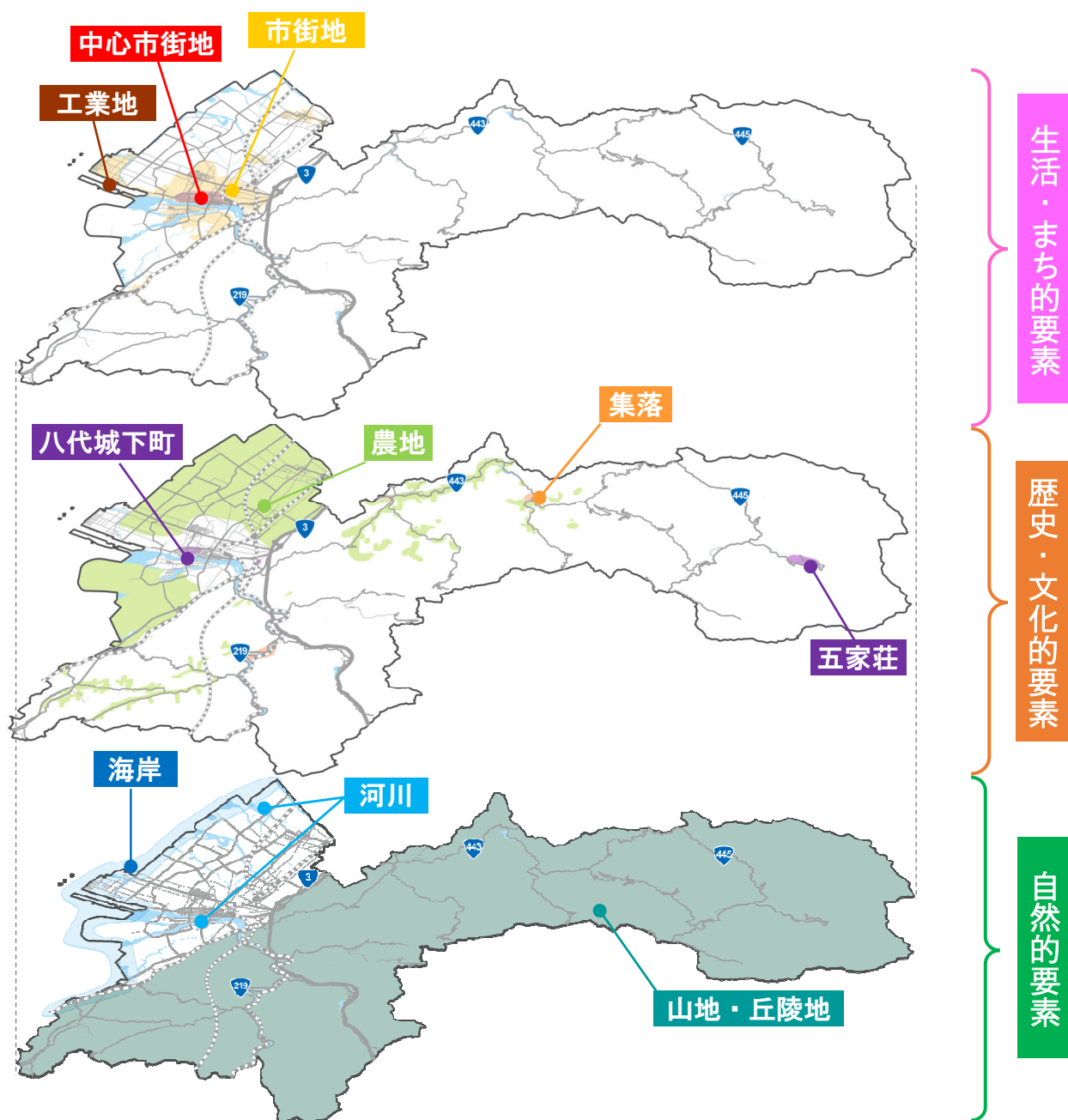


▲景観構造図

(2) 景観の構成要素

八代市の景観の美しさは、前述した特徴的な景観構造の中に包括される以下の3つの要素に分類でき、これらの要素が様々に混ざり合って形成されています。

- 「生活・まちの要素」：住宅地や商店街、工業地等、人々の日常生活のフィールドとなるもの
- 「歴史・文化的要素」：集落、干拓地や農地、歴史的まちなみ等、長い時間をかけて人々の営みの中で形成されたもの
- 「自然的要素」：海岸、山林、河川、沖積平野等、ありのままの自然



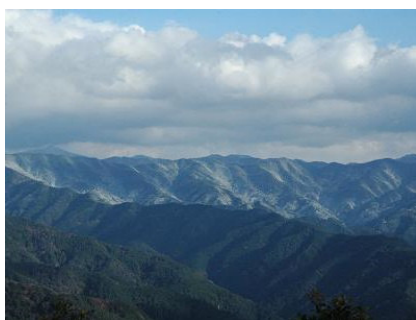
▲景観を構成する3つの要素

(3) 景観特性

①自然景観

●九州中央山地と丘陵地からなる「やまなみ景観」

- 東部は、九州中央山地国定公園や五木五家荘県立自然公園に指定された山間部となっています。
- 山間部には、川辺川の源流である熊本県最高峰の国見岳を中心に森林が広がり、五家荘の紅葉・新緑、美しい渓谷、吊り橋、国指定名勝の走り水ノ瀧をはじめとする滝、妙見上宮のクスノキ群、龍峯山自然公園や八竜山自然公園のやまなみなど、四季折々の変化に富んだ緑の景観が地域の人や訪れる人の目を楽しませています。
- 急峻な山々が連なる谷沿いの道路を中心に棚田が分布し、農林業を主体とする山村集落地が点在しています。
- 平野部から山が急激にせり上がる光景が、特徴的な景観のひとつとなっています。
- やまなみは、平野部からの眺めの背景となり、市内全体の景観に視覚的な潤いを与えています。



▲さかもと八竜天文台からのやまなみ



▲梅の木轟公園吊橋



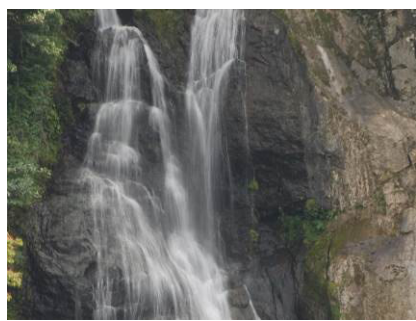
▲五家荘の紅葉



▲泉支所からみた山桜



▲樅木の吊橋



▲走り水ノ瀧



▲平野部からのやまなみ



▲氷川ダム



▲やまなみと山村集落

●八代海と干潟が広がる「海辺景観」

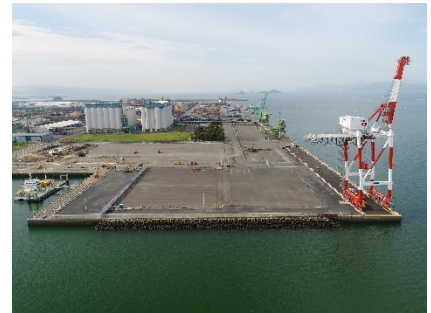
- 西部には、豊富な魚介類を育む雄大な八代海と広大な干潟の海辺景観が広がっています。
- 八代海に注ぐ球磨川の河口港として発展してきた八代港は、県下最大の重要港湾であり、南九州の国際的な物流拠点としての役割を果たしています。平成29年7月には国の国際旅客船拠点形成港湾に指定され、海外からの大型クルーズ船の寄港が増えています。
- 八代港の周辺には工場が集積し、八代海を背景にした工場群は、特徴的な景観のひとつとなっています。
- 西側一帯に海域が広がっているため、龍峯山自然公園展望台をはじめとする各所から、八代海に映える美しい夕日を眺めることができます。
- 日本書紀や万葉集にも記された国指定名勝「不知火及び水島」は、夕日と干潟をセットで見ることができる眺望スポットとなっています。
- 八代港からは、大築島（石灰岩を採掘した跡地）、三ツ島、雲仙、天草への眺望や八代海を背景にした工場群と夕日の景観が楽しめます。
- 八代海の球磨川河口部を中心とする干潟には、多くの貴重な干潟生物が生息し、シギ・チドリ類の飛来地になっています。
- 八代海沿岸には、干拓事業後に島が陸続きとなった、特徴的な景観が見られます。



▲大型クルーズ船



▲工場地のクレーン群



▲八代海と工業景観



▲水島と夕日



▲三ツ島・雲仙・天草への眺望



▲球磨川河口干潟と夕日



▲シギ・チドリ類の飛来地



▲展望台からの夕日



▲陸続きになった大島

●八代海に注ぐ雄大な球磨川や前川、氷川などの「河川景観」

- 市の中央部を貫き八代海に注ぐ球磨川や前川、氷川、流藻川、水無川等の河川は、水と緑の景観軸を形成しています。
- 球磨川などの美しい清流には、希少生物や植物が多数生息し、河川沿いには季節や時間の変化に富んだ自然景観が広がっています。
- 球磨川の悠然とした流れは、市のシンボルとなっており、川を渡る橋や土手からは市街地景観ややまなみ景観などを遠望することができます。
- 河川沿いは、散歩やサイクリングなど、レクリエーションの場として多くの人々に利用されています。特に球磨川の河川敷には、球磨川河川敷スポーツ公園が整備され、ソフトボールやサッカー等のスポーツや「やつしろ全国花火競技大会」などのイベントを楽しむ人が、数多く訪れています。また、流藻川や水無川沿いは、自然を楽しむ川辺の散歩道として人気があります。
- 球磨川では、多様な流れを持つ河川環境とともに地域の歴史を蘇らせる取り組みとして、加藤清正に由来する「八の字堰」が復元され、特徴的な景観を見せています。
- 球磨川の豊かな伏流水(地下水)により、高田地区などでは美しい水源が見られます。



▲球磨川



▲氷川



▲流藻川



▲大鞘川



▲水無川



▲前川



▲宮地親水公園



▲高田水源（長光水源）



▲八の字堰と遙拝堰（球磨川）

②歴史・文化的な景観

●八代城跡周辺や日奈久温泉街、五家荘、石橋群などの「歴史的景観」

- 城下町として栄えた中心市街地周辺には、八代城跡や松浜軒、薩摩街道沿いの町家、徳淵の津跡、蛇籠の船着場が、宮地地区には、「妙見さん」と呼ばれ親しまれる八代神社（妙見宮）、春光寺、紙漉き水路などの風情ある歴史的景観が残っています。
- 600年の歴史を持つ日奈久温泉街は、熊本県内で最も古い温泉のひとつであり、なまこ壁や木造建造物の街並みが残り、栈敷の相撲場がある日奈久温泉神社からは、日奈久の市街地と八代海の広がりのある景色を眺めることができます。
- 八代平野の山裾に位置する高田地区は、中世の灌漑で開拓された地域で、各集落に細い路地と笹垣があり、南北朝時代の古い地名や征西府・御所の跡が残っています。また、「遙拝さん」と呼ばれる豊葦原神社からは球磨川と市街地が一望できます。
- 龍峯地区には、修験道の霊峰「竜峰山」があり、巨石を組んだ鬼の岩屋式古墳が里の中に点在する特徴的な景観が見られます。また、七百町新地干拓の際の麓川用水が薩摩街道に沿って流れ、石灰岩がむき出しになった登山道も特徴的な景観の一つです。
- 坂本地区は、球磨川とその支流沿いに集落があり、細い路地や小さなお堂・神社が大切に守られています。また、深水発電所跡などの産業遺産が存在し、近年では、荒瀬ダムの撤去により、ダム底に沈んでいた遺構が姿を現し、新しい景観を見せています。
- 泉地区の平家落人伝説で知られる秘境「五家荘」には、釈迦院や平家の里、緒方家、左座家など、多くの歴史的建造物が残されています。また、東陽地区や二見地区では、四季折々の風景と一体となった石橋群が特徴的な景観を見せています。



▲八代城跡



▲八代神社（妙見宮）参道



▲日奈久温泉街の木造建造物



▲鬼の岩屋式古墳



▲日奈久温泉神社の栈敷・相撲場



▲豊葦原神社（遙拝神社）



▲五家荘（緒方家）



▲深水発電所跡



▲笠松橋

●八代妙見祭や樅木神楽、干拓地・田園景観、棚田などの「文化的景観」

- ユネスコ無形文化遺産に登録された八代神社（妙見宮）の八代妙見祭神幸行事、植柳の盆踊、泉町の久連子古代踊りや樅木神楽、千丁町の女相撲、鏡町の大鞆節など、生活文化に醸成された文化的景観が数多く存在しています。
- 各集落に残る「お堂を中心とした小さな祭り」や「年中行事」は、暮らしに密着した文化的景観を形づくっています。
- 西部には、球磨川が運び出す土砂によって形成された沖積平野と16世紀後半から進められてきた八代海の干拓事業により、広大な八代平野が形成されています。
- 八代平野には、日本一の生産量を誇る草や水稻、トマト等の野菜栽培を通した四季折々の田園景観が広がっています。
- 水を引き入れるための用水路である井手や洗い場は、生業から生まれた特徴的な景観のひとつとなっています。
- 球磨川は、古くから生活と密着していたことから、瀬や岩には1つ1つ名前が付けられています。
- 干拓地には、干拓事業の遺産である国指定重要文化財の旧郡築新地甲号樋門や県指定史跡の大鞆樋門群などがあり、八代を特徴づける景観のひとつとなっています。
- 山間部には、美生の棚田をはじめとする生姜畑や水稻の棚田、茶の段々畑など一体となった山村集落が点在し、文化的景観を形成しています。



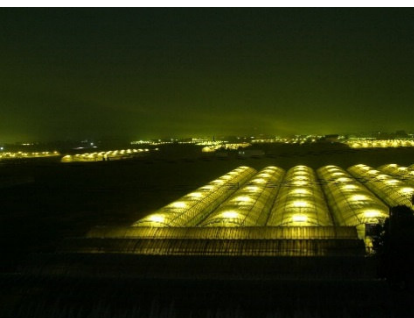
▲八代妙見祭（笠鉾）



▲千丁町女相撲



▲田園景観



▲ビニールハウスの夜景



▲久連子古代踊り



▲旧郡築新地甲号樋門



▲茶の段々畑



▲植柳の盆踊り



▲井手・洗い場

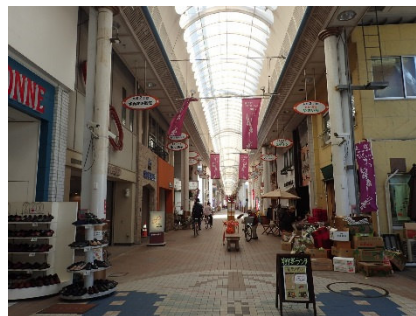
③まちなみ景観

●市役所周辺、本町アーケード商店街、日奈久温泉街などの「市街地景観」

- 江戸時代から城下町として栄えた中心部には城下町の町割りが今も残り、市街地を形づくる基盤となっています。
- 薩摩街道を含む城下町として町が配置されてきたことから、八代城跡や市役所、本町アーケード商店街を中心としたエリアに市街地景観が広がっています。
- 日奈久温泉街や鏡地区など都市計画区域内の幹線道路沿いにも市街地景観が広がっています。
- 明治時代より製紙工場等が立地し、県内有数の工業地帯として発展してきたことから、工場の煙突群が、市街地景観の特徴のひとつとなっています。
- 現在、市役所の新庁舎整備が進められており、庁舎を中心としたエリアの景観整備に注目が集まっています。
- 市役所周辺には、八代市立博物館や八代警察署などの近代的な建築物があり、洗練された都市景観がみられます。
- 竜峰山等の山々からは市街地の美しい夜景を眺めることができます。



▲城下町の風情を残すまちなみ



▲本町アーケード商店街



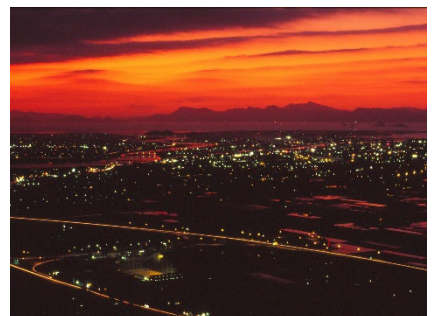
▲市街地の工業景観（煙突群）



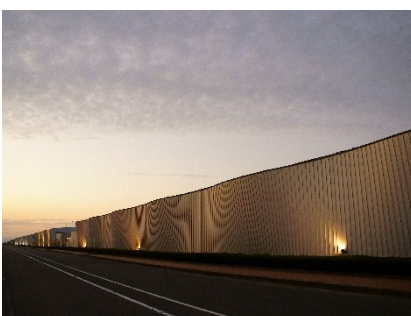
▲日奈久温泉街



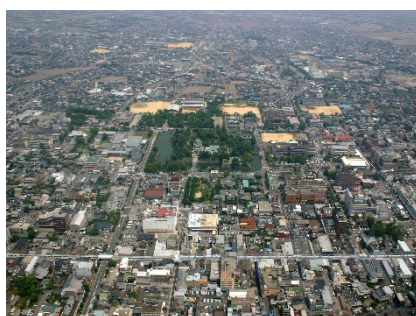
▲八代市立博物館



▲市街地の夜景



▲八代港付近の工業景観



▲中心市街地（市役所周辺）



▲八代警察署

●景観の骨格軸としての「幹線道路沿道景観、鉄道沿線景観」

- 市内を南北に走る国道3号、国道219号、九州縦貫自動車道、南九州西回り自動車道、県道八代鏡宇土線、並びに東西に走る国道443号、県道八代港線などは、幹線道路として人々の活動を支えています。
- 国道3号、県道八代鏡宇土線、県道八代港線などの幹線道路の沿道には、商業施設が集積し、賑わいのある沿道景観となっています。
- JR鹿児島本線、肥薩おれんじ鉄道、JR肥薩線、九州新幹線の車窓からは、広大な干拓地や八代海、球磨川の清流、線路沿いに広がる晩白柚畑や高田みかん畑など、八代ならではの美しい景観を眺めることができます。
- 球磨川第一橋梁を含むJR肥薩線が、平成29年12月に、日本イコモス国内委員会が選ぶ後世に残したい「日本の20世紀遺産20選」に選定されました。また、橋梁のほかにも、連続する石積・レンガ積のトンネルや擁壁など、歴史的な鉄道沿線景観が残されています。
- 自転車歩行者専用道路として整備された「八代緑の回廊線」は、四季折々の花々や「せせらぎ水路」により、“やすらぎ”と“うるおい”のある憩いの空間として多くの人に利用されています。



▲国道3号（電線地中化）



▲県道八代港線



▲八代緑の回廊線



▲新八代駅



▲肥薩おれんじ鉄道と八代海



▲肥薩おれんじ鉄道と晩白柚畑



▲球磨川橋梁（奥）と
球磨川大橋（手前）



▲九州新幹線沿線の菜の花畑



▲球磨川第一橋梁（JR肥薩線）

(4) 景観の主な問題点と課題

①自然景観

●良好なやまなみ景観の保全

- 山間部の一部では、山肌の露出やソーラーパネル、携帯電話の電波塔などの工作物が、良好なやまなみ景観を阻害しているところが見られます。また、耕作放棄地や空き家・空き地なども、やまなみ景観を阻害している要因のひとつになっています。
- やまなみの眺望に配慮し、大規模な土地の改変に対する規制や周辺の自然環境と調和した建築物・工作物への景観誘導等による、やまなみ景観の保全・育成が必要です。
- 五家荘や溪谷の吊り橋、滝、自然公園の展望台など、本市を代表する眺望スポット周辺においては、重点的な景観保全・育成など効果的な景観づくりが必要です。
- 農林業振興との連携を図りながら、山地・丘陵地の荒廃を防ぎ、良好なやまなみ景観と山村集落地の景観を保全していくことが必要です。特に、山村集落地では、高齢化・過疎化に伴う限界集落の増加により、美しい山村景観を維持していくことが困難になっています。山村集落地への移住定住の促進など、担い手を育成する取り組みも必要です。

●夕日の映える海辺景観の保全・活用と「海の玄関口」の景観づくり

- 八代海の雄大な景観を活かすため、八代海沿岸や干潟周辺地域では、自然景観と調和した建築物・工作物への景観誘導等による、美しい海辺景観の保全・育成が必要です。
- 八代港の周辺地区では、国際クルーズ拠点に相応しい「海の玄関口」としての景観づくりが必要です。
- 八代海を背景にした工場群と夕日の眺望を活かす取り組みが必要です。
- 海辺と触れ合うことができる親水空間の創出など、海辺景観を活用した取り組みが必要です。
- 貴重な自然環境である干潟を保全していくための取り組みが必要です。

●人々に親しまれる美しい河川景観の保全・活用

- 多くの人々に親しまれ、眺望が開ける河川沿いの景観は、身近で人目につきやすいため、ごみや雑草が他の場所に比べて目立つように感じられます。
- 河川沿いに派手な建築物や工作物が存在したり、ごみが散乱していると、河川沿いの景観が荒廃している印象を受けます。
- 多様な動植物の保全とともに、ごみ拾いや草刈りなど、河川景観の保全が必要です。
- 河川沿いは散歩などの利用が多いため、水辺と触れ合うことができる親水空間の整備や“眺めの小路”と河川ネットワークとの連携による河川景観の活用が必要です。

②歴史・文化的な景観

●多様な歴史的景観の保全・活用

- 国指定史跡のひとつである八代城跡は、平成２８年熊本地震で石垣が壊れ、平成３０年に修復が完了しました。この他にも市内の文化財が地震で被害を受け、修復作業が進められています。一方、文化財に指定されていない町屋や木造建築物などは、その価値が十分に認識されていないため、居住者がいなくなれば、空き家・空き地となって管理されなくなり、すぐに取り壊されてしまう可能性があります。
- 日奈久温泉街や八代神社（妙見宮）周辺などでは、空き家・空き地が増え、歴史的景観が徐々に失われつつあります。
- 歴史的資源の周辺に空き家・空き地があったり、調和しない建築物や工作物が建ったりすると、歴史的な趣が損なわれてしまいます。
- 風情ある歴史的景観を先人から受け継がれた財産と捉え、風格のある景観の保全を図るとともに、空き家・空き地の有効活用が必要です。
- 球磨川の「八の字堰」の復元のように、官民一体となって歴史的遺構を次世代へ継承していくことが必要です。

●文化の継承と文化的景観の保全・活用

- 八代妙見祭神幸行事が行われる八代神社（妙見宮）周辺は、一般的な住宅地となっているため、ユネスコ無形文化遺産登録の機運を盛り上げ、歴史と文化の趣を感じられる景観づくりが求められています。
- 生活文化に醸成された神事・催事のほか、各集落に昔から残る暮らしに密着した「お堂を中心とした小さな祭り」や「年中行事」などを継承していくことも必要です。
- 干拓地や山間部の棚田がつくり出す文化的景観の保全を図るためには、農林業振興との連携が不可欠です。生業との連携を図るとともに、樋門群などと調和した広がりのある干拓地景観の保全や棚田等の文化的景観を保全・活用することが必要です。

③まちなみ景観

●賑わいとうるおい、落ち着いたある市街地景観の創出

- 県道八代港線などの沿道には、大規模商業施設が集積し、賑わいのある沿道景観がみられます。その一方で、JR八代駅周辺や本町アーケード商店街、日奈久温泉街には、空き店舗・空き地がみられ、賑わいが乏しい状況となっています。
- 市民意向調査では、八代市の悪い景観として「廃屋・空き家が目立つ」が最も多く挙げられています。これらの地区では、空き店舗・空き地の改善・活用を図るとともに、一定のコンセプトに基づく統一感のあるまちなみ景観形成のルール化が必要です。
- 本町アーケード商店街の土曜夜市や日奈久温泉街の路地を活用したまちづくりなど、まちの賑わいを創出する活動による「賑わいの景観づくり」が必要です。
- 市街地から眺望できる工業景観の活用や新庁舎周辺の八代城跡と一体となった落ち着いた風格のある景観整備が必要です。
- 市街地周辺の干拓農地には、市街地のスプロール化が進行し、住宅の開発が行われている地区があります。これらの地区では、周辺の田園景観と調和したまちなみの景観づくりが必要です。

●幹線道路や鉄道沿いの良好な沿道景観づくりと「陸の玄関口」の景観づくり

- 国道3号、県道八代鏡宇土線、県道八代港線などの幹線道路の沿道には、商業施設が集積し、派手な色彩の建築物・屋外広告物が他の地区より多くみられます。
- 景観の骨格を形成する幹線道路の沿道や鉄道沿線は、建築物・工作物・屋外広告物の色彩や大きさの規制等による良好な景観づくりが必要です。
- 幹線道路の街路樹や工作物などの適切な維持管理による景観づくりが必要です。
- 田園の中を抜ける幹線道路沿道や鉄道沿線では、周辺の田園景観と調和した景観づくりが必要です。
- 干拓地の風景、晩白柚畑や高田みかん畑、球磨川の清流など、八代ならではの景観を活かすテーマ性をもった景観づくりが望まれます。
- 九州新幹線の新八代駅周辺やインターチェンジ周辺地区においては、周辺のまちなみや背景となるやまなみ景観と調和した建築物・工作物への景観誘導等による、「陸の玄関口」に相応しい景観づくりが必要です。

④まとめ

このように、本市は、自然・歴史・文化、まちなみの景観特性ごとに特徴ある価値を有しており、それらが重なり合って八代固有の美しい景観を構成しています。

しかしながら、市を取り巻く様々な社会的変化の中には、景観の持つ価値が損なわれると懸念されるものもあることから、景観の価値を守っていくための仕組みづくりが必要となります。

現在、清掃活動や庭先緑化など、市民による自主的な景観づくりの動きは見られますが、まだ一部の活動として留まっており、景観に対する市民の意識は決して十分とはいえません。

このような市民の景観形成意識に対して、その更なる啓発のきっかけとなり、市民・事業者・行政の協働による景観形成につなげていくため、景観まちづくりの考え方・方策が強く求められています。

第5節 “眺めの^{こみち}小路”を用いた景観まちづくり

(1) “眺めの^{こみち}小路”とは

八代市景観計画では、市の顔となる場所の景観づくりに加えて、市民が考える「身近な生活景観」を大切にしたい景観づくりを進めていきます。

地域住民の長年にわたる自然への働きかけ、風土に根ざした伝統的な生活様式、土地への愛着などの結果として生み出され、維持・管理されてきた「身近な生活景観」は、八代らしさを構成する重要な要素であり、今後、保全・育成していくべき景観です。

この「身近な生活景観」を保全・育成していくため、本計画では、“眺めの小路”に着目しました。“眺めの小路”とは、八代市を特徴づける景観や守り育てていきたい景観を、眺め、楽しみながら歩くことができる小路です。本計画では、“眺めの小路”を景観まちづくりの活動の場として位置付けています。

(2) 景観まちづくりにおける“眺めの^{こみち}小路”の有効性

主として地域住民が日常生活で利用する“眺めの小路”は、「身近な生活景観」を眺めるための良好な視点場になると同時に、地域住民の交流の場ともなります。

また、“眺めの小路”は、歩行者や自転車のほか、自動車も利用します。様々な種類の移動手段が共存している場所では、お互いが譲り合い、ゆっくりとした速度で移動が行われることから、利用者は、道端に咲く花や、せせらぎの音などの細かな部分にも気づきやすく、その地域ならではの魅力的な景色を楽しむことができます。

このように身近な存在である“眺めの小路”を通じて、市民が景観に対する関心を高め、自分にできる範囲で景観まちづくりに取り組むことにより、協働による景観まちづくりが推進されることが期待できます。

(3) 八代市の“眺めの^{こみち}小路”

八代市では、自然豊かな風景やまちなみ、歴史文化遺産などを楽しむことができるウォーキングコースやサイクリングロードが各地域に設定されており、市民の憩いの空間となっていることから、これらを主要な“眺めの小路”として位置づけることとします。

また、市内の河川沿いや幹線道路、鉄道沿線は、市民や来訪者など多くの人が利用する空間であるとともに、各地域を貫く骨格の役割を果たすことから、これらを「景観軸」として設定し、“眺めの小路”を検討する際に配慮することとします。



妙見宮と紙漉きの里の
“眺めの小路”



水無川沿い 桜並木の
“眺めの小路”



日奈久温泉街の“眺めの小路”

▲八代市内の“眺めの小路”のイメージ（一例）

(4) “眺めの小路”^{こみち}を用いた景観まちづくりのあり方

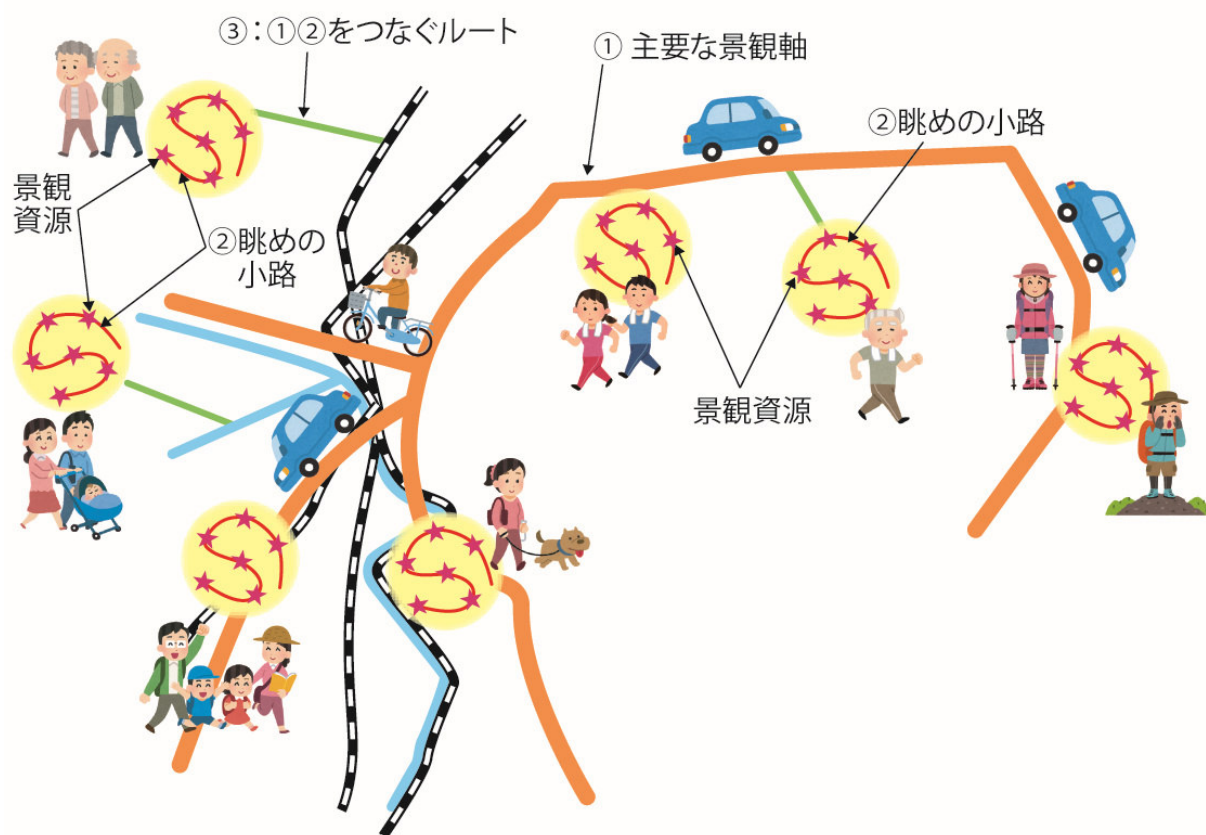
主要な景観軸である河川や幹線道路、鉄道と、主要な“眺めの小路”と位置づけられるウォーキングコースやサイクリングロードとをつなぎ、「眺めの小路」ネットワークを構築することで、市全域に回遊性や連続性が生まれます。

将来的には、“眺めの小路”に近接する公共施設などを、各“眺めの小路”をつなぐ結節点とすることで、徒歩から自転車や自動車、公共施設への乗り換えを可能とし、“眺めの小路”ネットワークの広がりや利用促進が期待できます。

また、そこに生活者の営みや市民活動によって手が加えられ、“暮らしの社会基盤”としての“眺めの小路”の機能が向上することにより、市民や来訪者の誰もが景観を楽しみながら快適に過ごすことができる空間を創出し、市全体の魅力あるまちづくりに寄与するものと考えます。

【“眺めの小路”ネットワークの構成】

- ① 主要な景観軸：河川景観軸、道路景観軸、鉄道景観軸
- ② ウォーキングコース+サイクリングロード：
主要な“眺めの小路”と位置づけられる八代市の自然や歴史をたどるみち
- ③ 上記①②をつなぐルート：自動車・自転車での移動を基本とした①・②をつなぐコース



▲ “眺めの小路”ネットワークのイメージ